

苫小牧市

林 裕生

1、概要と歴史

1-1 苫小牧市の概要

苫小牧市は北海道の南西部に位置する海に面した町である。そのため、古くから工業が発達し、明治期には製紙業が発展し、「紙のまち」として親しまれている。高度経済成長期には東部に大規模工業基地が建設され、現在では同じく東部に大規模な石油コンビナートが林立している。また漁業においてはホッキ貝の漁獲高が全国の1割を占め、市の貝にも指定されている。

現在苫小牧市は、高速道路のインターチェンジや千歳空港が近くにあり、空の交通も便利であるため、北日本有数の総合工業地域として発展している。

1-2 地名の由来

以前、苫小牧川が流れる一帯をアイヌ語で「マコマイ」(奥に入っていく川)と呼ばれており、沼のあった旧樽前神社付近一帯はアイヌ語で「沼」の意味を持つ「ト」をつけて「ト・マコマイ」と呼ばれるようになり、今日の苫小牧になった。

2、苫小牧市の歴史

苫小牧市は、1800年に八王子千人同心という、原新助を隊長とする武士の一団が武州八王子から、蝦夷地の防衛と開拓を目的に勇払に上陸し、1873年に勇払にあった開拓使をこの地に移したことが、苫小牧市の開基となった。その翌年、苫細を苫小牧と改名し、さらに1880年には千歳、新冠、白老、勇払、静内などにあった役所を苫小牧村内に設置した。その10年後の1890年には、苫小牧村内に15戸の村戸長役場を設けた。1902年には苫小牧村、勇払村、植苗村、樽前村、覚生村、錦多峰村、小糸魚村を合併し苫小牧市となる。この後1918年の町制施行にあわせて苫小牧町となり、またさらに1948年の市制施行によって、再び苫小牧市になった。

また、苫小牧市は紙業・漁業・工業が発達した町であるので、それらの産業に関する歴史年表を以下にあげておく。

図1 市章



出典：ちきページ

図2 カントリーサイン



出典：北の道ナビ

表 1 苫小牧市の年表

(1910) 王子製紙(株)苫小牧工場が操業開始
(1924) 北海道庁林千秋技師が「勇払築港論」を提唱
(1938) 苫小牧町は「工業港苫小牧の将来とその使命」を発行。
(1943) 大日本再生製紙(現日本製紙)勇払工場操業開始 / 「勇払工業港修築計画」策定
(1950) 市営バス運行開始 / 「苫小牧工業地計画」策定
(1951) 苫小牧工業港起工式
(1958) 王子製紙無期限ストに突入 / 苫小牧港開発株市会社設立
(1963) 苫小牧港に第 1 船入港 / 大泉源郎氏二代目市長に就任
(1966) 苫小牧港外国貿易港に指定
(1968) 西部工業団地進出企業第一号の日の出化学工業(株)操業開始
(1969) 道の総合開発委員会で苫東大規模工業基地開発計画案を決定
(1972) 苫小牧東部開発株式会社設立 / フェリー第 1 船入港
(1973) 出光興産(株)北海道精油所操業開始
(1976) 苫小牧東港現地着工
(1978) ネーピア港と姉妹港提携 / 駅前バスターミナル開設
(1981) 苫小牧港が特定重要港湾に昇格 / 苫東の国家石油備蓄基地着工
(1982) いすゞ自動車北海道工場が苫東工業基地 D 地区で建設着工 / 新苫小牧駅完成
(1984) いすゞ自動車(株)北海道工場操業開始 / 国家石油備蓄基地にオイルイン開始
(1988) 道央テクノポリス開発機構設立 / 苫小牧市基本構想改定
(1989) 道央テクノポリス地域指定 / 外国貿易船入港 1 万隻達成
(1990) トヨタ自動車が苫小牧西部工業団地へ立地表明、翌 3 年 5 月工場建設に着手
(1992) 苫小牧港が動物検疫港に指定 / フェリー旅客 1 千万人突破
(1993) トヨタ自動車北海道(株)竣工
(1994) アイスアリーナ建設着工 / 天然ガスパイプライン起工式
(1997) 入船国際コンテナターミナル完成 / 苫小牧沖油流出事故発生
(2003) 出光石油タンク火災

参照 HP：苫小牧市役所

3、苫小牧市の位置

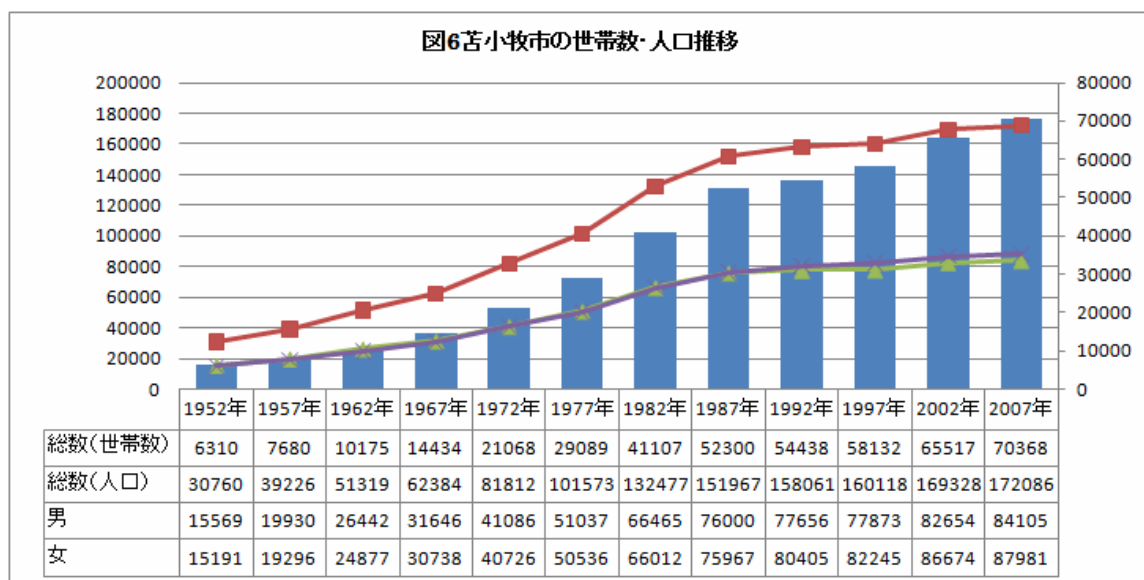
苫小牧市は、東経 141 度、北緯 42 度の北海道南西部に位置し、道都札幌から車で 1 時間半ほどのところに位置している。市の南部は海に面しており、特定重要港湾である苫小牧港がある。また、北海道陸路の大動脈と言われる国道 3 6 号線をはじめ、苫小牧市を起点

苦小牧市の気候は、寒冷地の北海道にあって、冬は降雪が少なく最低気温も氷点下 10 度を下回る事は稀な北海道の中でも温暖な地域である。降雪の少ない苦小牧市は、冬はスキーの代わりにスケートやアイスホッケーが盛んであり、中学校の授業に取り入れられたり、社会人チームも活発に活動している。また、真夏は 25 度を越えることが珍しく、しのぎやすい気候である。年間降水量は平均約 1200mm と少なく、晩春から初夏にかけて港湾都市特有の海霧がかかる。

図5 苫小牧市の降水量・最高平均・平均気温・最低平均



4、苫小牧市の人口・世帯推移



出典：北海道庁HP

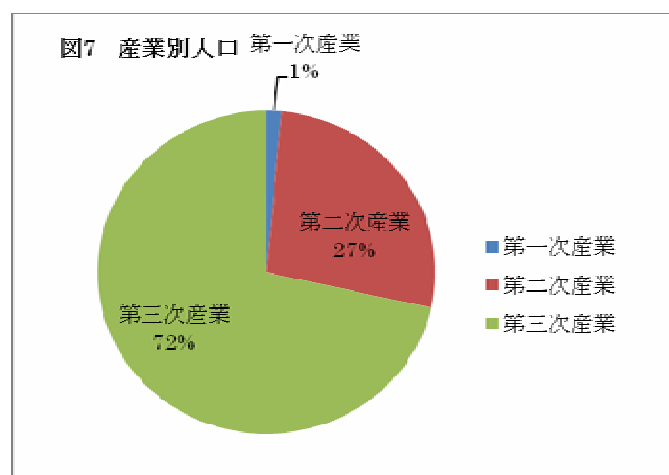
苫小牧市の人口は、工業の発展と共に増加していき、今日では17万人を突破している。苫小牧市となった1948年の時点では人口は33000人あまりだが、現在の苫小牧東港が開港した1980年には15万人を突破している。その約10年後には16万人に達し、またその7年後の1997年に17万人を達成した。グラフを見ても分かる通り、ここ数年の人口はほぼ横ばいである。

5、苫小牧市の産業

5-1 苫小牧市の産業別人口

苫小牧市の産業別人口は、第一次産業が1115人、第二次産業が20920人、第三次産業が55186人であり、業種別には、紙業や石油関連産業、漁業などの従事者数が多い。

総人口に対する割合は、第一次産業が1%程度であるのに対し第三次産業は5割近くとなっている。第二次産業は2割程度である。



出典：苫小牧市役所HP

5-2 農業

苫小牧市の地質は火山礫や泥炭層が多く、気象条件からみても一般作物には適しておら

図 8 ハスカップ



ず、苫小牧市の農家の割合は年々減っており、2005 年の時点で人口の割合が 0.1% 未満となっている。しかし、小牧市の勇払原野は古くから日本唯一のハスカップ群生地であり、現在では苫小牧市とその近郊の市町村で栽培され、苫小牧市の名産品にもなっている。また、この名産品にちなんで、毎年ハスカップレディコンテストも開催されている。

また、苫小牧市は畜産を中心とした農業を展開している市町村であり、近年はハスカップやほっき貝に並ぶ特産品として「樽前牛」や「樽前湧水豚」などの銘柄の確立に力を入れている。

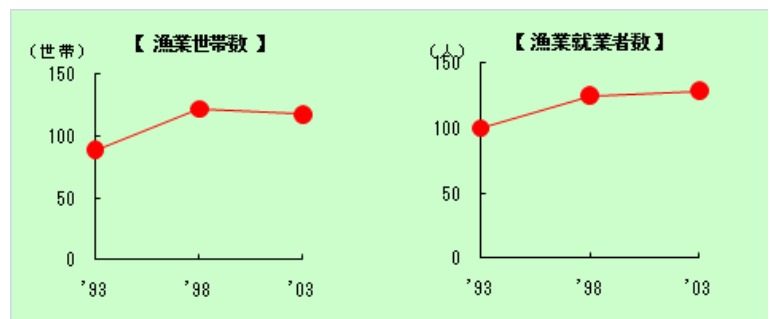
出典：とまこしらべる

5-3 漁業

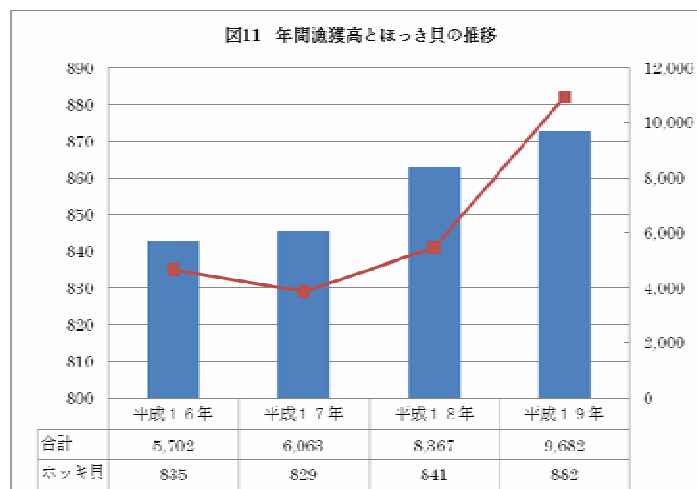
苫小牧市は、苫小牧港をはじめとした港湾都市であり、漁業がとてもさかんな地域である。中でも苫小牧港は特定重要港湾の指定を受けており、北海道での港湾貨物取扱量の 3 分の 1 を占める大きな港である。特に 10 トン未満の漁船が中心で、主な漁業には

ホッキ桁網、カレイ刺し網、スケトウダラ刺し網、サケ定置網漁業などがある。特にホッキ貝の水揚げ量は全国一を誇り、年間の漁獲量が 850 トンを超え、市町村別の漁獲量でも 8 年連続 1 位を記録している。苫小牧市の漁業の中心であり、最も安定した漁業収入となっている。漁業世帯数も 118 世帯と第一次産業に比べると倍近くの世帯数で、漁業に就業する人口も年々増加傾向にあり、漁業がさかんであることの裏付けといえる。

図 9 漁業人口の推移

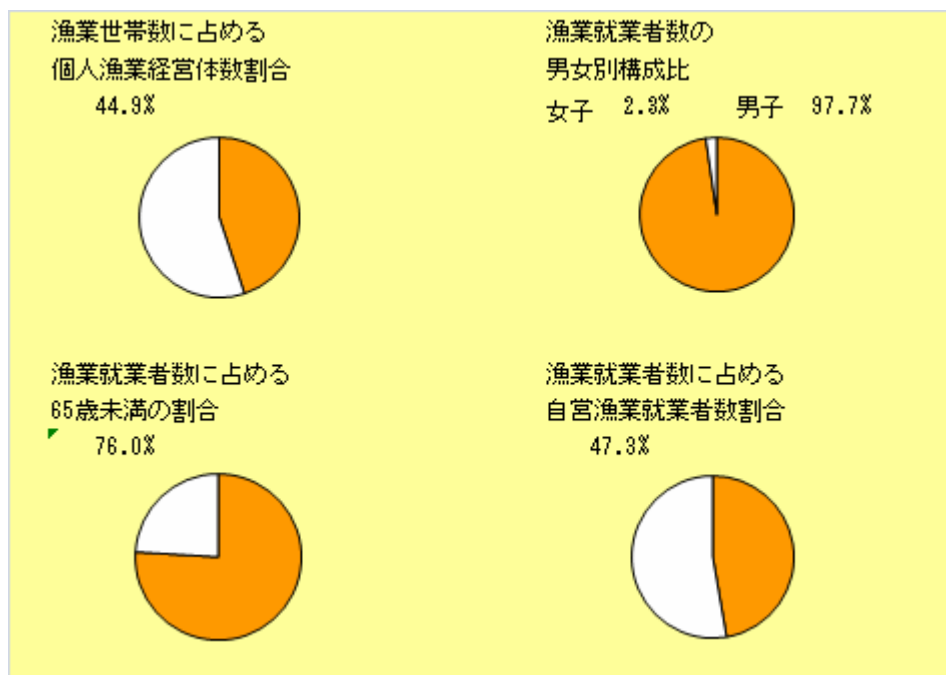


出典：農林水産省 H P



出典：北海道水産現勢

図 10 漁業における各種割合



出典：農林水産省HP

5-4 工業

苫小牧の工業は、主に西と東の 2 つの大きな工業地帯が柱となっている。

まず、貨物輸送の近代化に対応した整備が進む

苫小牧西港の臨海部には、石油精製、自動車、電力、木材のほか、化学、非鉄金属、配合飼料などの多様な企業が進出し、一大臨海工業地域を形成している。市内東部には石油コンビナートが林立しており、民間と国家を合わせると、

国内最大の備蓄率になる。この開発地域は、国家プロジェクトとして位置づけられており、従来の重化学工業を中心とする大規模な地域開発から、最近では生産・研究開発機能の整備も進められている。また、苫小牧市は明治期から紙業が発展し、「紙の町」として有名である。中心部には王子製紙や日本製紙の工場があり、特に王子製紙の煙突は「王子の煙突」と言われ町のシンボリック的存在となっている。

工業への産業従事者数は年々増加しており、すそ野の広い産業として期待されている。

図 12 苫小牧西部工業地域の様子



出典：苫小牧市HP

図 13 東部工業地域の様子



出典：苫小牧市HP

6、苫小牧市の観光

苫小牧市の観光名所としては、世界的にも珍しい三重式活火山で、天然記念物に登録されており、高山植物の宝庫といわれている秀峰樽前山、国内４番目のラムサール条約登録湿地に認定されたウトナイ湖、またウトナイ湖の中にあり、日本で初めてバード・サンクチュアリに登録されたウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンターなどがある。ウトナイ湖やサンクチュアリネイチャーセンターでは、四季に応じた野鳥を観察することができ、今までに 260 種類以上の野鳥が観察されている。

さらに、スケート、テニス、野球、サッカーなどの各種競技大会が開催される緑ヶ丘公園がある。さらに、国際大会に対応した全国的にも最高水準であるスケート施設、白鳥アリーナがある。この施設は日本で行われるアイスホッケーの全国大会の主な会場となっている。また、千歳空港の近くにあるノーザンホースパークは敷地面積 50 ヘクタールの巨大な公園で、ひき馬や馬車をは結婚式などにも利用されている、北海道の新名所と期待

年間の観客入れ込み客数は 140 万人で、その内道外客万 2 千人である。
歴史的観光名所としては国の指定文化遺跡に登録された 7 代の土器が出土する遺跡であり、時にはエゾシカやエゾ鹿の名所になっている。

7、苫小牧市の行事

苫小牧市で有名なお祭りに、「とまこまい港まつり」と、「苫小牧スケート祭り」がある。苫小牧で、毎年夏に行われるとまこまい港まつりは、前身を「とまこまい観光まつり」と言い、1950 年からの歴史がある。中でも名物は毎年盛大に行われる花火大会で、2700 発の花火が打ち上げられ、苫小牧市民の夏の風物詩となっている。他にも市民踊りやマーチング・フェスティバルなどがあり、市民に親しまれている。

とまこまいスケートまつりは、毎年 2 月頃に開催される、スケートがさかんな苫小牧ならではの祭りである。会場となる若草町中央公園では出店や催しものが行われ、近くの白鳥アリーナやハイランド屋内・屋外リンクでは、スケートをはじめ様々な競技が楽しめる。

図 14 ウトナイ湖



出典：苫小牧観光情報センター

図 15 秀峰 樽前山



出典：苫小牧観光情報センター

図 16 白鳥アリーナ



出典：苫小牧観光情報センター

るお祭りである。また、このお祭りでは、ドラム間の上でジンギスカンをする「しばれ焼き」というものが名物になっている。今年で 44 回目を迎える苫小牧の冬を代表するお祭りである。

図 17 港まつりの様子



出典：とまこしらべ〜る

図 18 苫小牧スケートまつりの様子



出典：苫小牧スケートまつり実行委員会HP

参照HP

苫小牧市HP：<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/>

農林水産省HP：<http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/map2/01-01/213/index.html>

ウィキペディア：

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

北海道庁HP：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

北の道ナビ：<http://northern-road.jp/navi/i/index.htm>

ちきページ：<http://www.chikipage.net/ctvsymbol/list/hokkaido1.php>

とまこしらべ〜る：<http://namara-e.biz/>